

ディベート 2 「小さな腎癌に対する治療戦略」

—司会の言葉—

松 田 公 志

関西医科大学泌尿器科学教室

小さな腎癌に対する治療戦略が大きく様変わりしつつある。腫瘍の同一腎内多発なども議論されたが、腎保存的治療は T1a 腫瘍に対する第 1 選択としてコンセンサスがえられつつあるといえよう¹⁾ 開放手術で腎阻血を伴う腎部分切除術の歴史は古いが、より低侵襲で安全な方法が各種開発され、急速に普及しつつある。

腹腔鏡下腎部分切除術が発表されてから、すでに12年が経過し、種々の技術的改良が加えられてきた^{2,3)} 腹腔鏡下の縫合技術の進歩と普及によって、従来の開放手術と同じ方法での腹腔鏡下手術が広まりつつある^{4,5)} 腹腔鏡手術特有の制限をどのように克服するか、術中の腎冷却法、阻血時間短縮法、合併症予防法などが重要な論点といえよう。

一方で、開放手術においても、より安全確実で容易な手技として、マイクロターゼを用いた方法が開発され、すでに多数症例の経験を踏まえて術式として確立した感がある⁶⁾ しかし、無阻血で安全とはいえ、手技には細かな工夫があり、機器の適切な条件設定とともに適切な教育を受けた後での実施が望まれる。

腹腔鏡手術より低侵襲の治療法として、種々の腫瘍壊死化技術が開発された⁷⁾ 収束超音波、凍結、マイクロターゼ、ラジオ波などがある。いずれも技術として確立したとはいいがたい。生存細胞を残すことなく腫瘍全体で壊死がえられるのか、実施時のモニタリング法と安全性の確保、術後経過観察法など、残された問題は多いといえよう。しかし、medical engineering の飛躍的進歩の中で、近い将来小さな腎癌に対する主要な治療法として確立される可能性も高いと考えられ

る。

このように、T1a 腎癌に対する各種治療手技が開発普及する中で、今回のディベートは企画された。主要な論点は Table 1 のように考えられた。いまだ発展途上の技術を含んだ今回のディベートでは、現状とともに将来の方向性をも踏まえた討議が行われた。この記録集が、小さな腎癌を持つ患者を日常的に診療している泌尿器科医にとって役立てば幸いである。

文 献

- 1) Uzzo RG and Novick AC : Nephron sparing surgery for renal tumors : indications, techniques, and outcomes. *J Urol* **166** : 6-18, 2001
- 2) Winfield HN, Donovan JF, Godet AS, et al. : Laparoscopic partial nephrectomy : initial case report for benign disease *J Endourol* **7** : 521-526, 1993
- 3) Murota T, Kawakita M, Oguchi N, et al. : Retroperitoneoscopic partial nephrectomy using microwave coagulation for small renal tumors. *Eur Urol* **41** : 540-545, 2002
- 4) Gill IS, Desai MM, Kaouk JH, et al. : Laparoscopic partial nephrectomy for renal tumor : duplicating open surgical techniques, *J Urol* **167** : 469-470, 2002
- 5) Matsuda T, Nakagawa M, Oguchi N, et al. : Retroperitoneoscopic partial nephrectomy with transient occlusion of renal artery for treatment of small renal tumors. *Urology* **64** : 26-30, 2004
- 6) Hirao Y, Fujimoto K, Yoshii M, et al. : Non-ischemic nephron-sparing surgery for small renal cell carcinoma : complete tumor enucleation using a microwave tissue coagulator. *Jpn J Clin Oncol* **32** : 95-102, 2002
- 7) Mabweesh NJ, Avidor Y and Matzkin H : Emerging nephron sparing treatments for kidney tumors : a continuum of modalities from energy ablation to laparoscopic partial nephrectomy. *J Urol* **171** : 553-560, 2004

Table 1. 小さな腎癌に対する治療戦略：争点

- | |
|---------------|
| 1. 癌の根治性 |
| 2. 腎機能の温存 |
| 3. 手術の侵襲度と合併症 |
| 4. 手技の難易度と普遍性 |
| 5. 各術式の適応と禁忌 |

(Received on May 13, 2005)
(Accepted on May 26, 2005)